



朱雀の翼

三者面談に向けて



今週から三者面談が始まります。3年生は、2回目の面談となり、進路決定に向けて、いよいよ志望校を絞っていきます。並行して校長又は副校長と面接練習も行います。面接は緊張する人が多いようですが、言葉のキャッチボールができるように、まずは面接カードを書いてみましょう。

1、2年生の面談は、2学期の学校生活を中心に振り返り、来年度に向けての準備について相談することが目的です。面談をする前に、今の自分の考えをまとめておきましょう。

まさに自分と「対話」する時。自分と向き合い、自分の言動や考えを省みることを「内省」といいます。「今日は、こんなことがあってこう思ったけど、今は～と思う」

「次回は～しよう」と振り返って考えてみることはありませんか？

携帯電話やゲーム機が身近にあり、LINE やメールなどで誰かから連絡がくればすぐに返信し、しばらくやり取りしていると、時間はあっという間に過ぎてしまいがちです。

自分とじっくり向き合う時間がなかなかとれずに、忙しく時間が過ぎていく生活をしている若者が多いのでないでしょうか。

「自分の心の声」を聞いてみることで、自分をよく知ることにつながります。自分がやりたいこと、好きなこと、得意なことが見えてきます。そうすると心が満たされ、満足して、納得できる生き方や自分らしく生きていくことにつながるのです。

生徒の皆さんには、繰り返し伝えていますが、自分のいいところを

たくさん見つけ、自分で伸ばして行ってほしいです。自分のいいところが「強み」となり、いつか、悩んだり、困ったりしたときに勇気や自信となり、一步を踏み出す支えとなってくれるのです。

まずは、自分がどうしたいのか、どう感じているのか、自分の思いや考えをしっかりとつことが大切です。多感な年頃には、その時の感情にまかせて流された言動をしてしまいがちです。自分をコントロールしながら、自分の思いや考えを保護者の方や担任に伝えられるように準備していきましょう。



東京都では毎年6月、11月、2月をふれあい月間として、いじめや不登校、暴力などの問題行動の未然防止に向けて、生徒たちの健全育成を目指して取組を行っています。本校ではこれに合わせて「教育相談アンケート」を実施しています。平成25年6月にいじめ防止対策推進法が公布され、いじめが定義されました。「この法律において『いじめ』とは、生徒等に対して、当該生徒等が在籍する学校に在籍している等当該生徒等と一定の人的関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいう。」

本校では、からかいやひやかしなどの軽微ないじめも見逃さないために、校内研修等の実施、より深い生徒理解に努め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行っています。

また、教育支援部会や生活指導部会を毎週開催し、情報共有や協議を行っています。さらに道徳の授業や学級活動、全校朝会などの様々な場面で、「いじめを絶対に許さない心」の育成に取り組んでいます。学校満足度アンケートでは、「いじめは絶対にいけない」とい



う認識をもつ生徒が86% (学校だより 10月掲載) で、100%にしなければなりません。大切なことは「いじめ」を見逃さず、生徒の心に寄り添いながら解決に向けて導いていくことです。学校だけでなく家庭・地域と一体となっていじめ防止に取り組み、本校の「目指す生徒像」にある「自他を尊重し、正しい判断に基づき責任を重んじ他者と協力する生徒」を育ててまいります。※挿絵は、生徒作品1年「校歌と校章のデザイン画」より。

季節を感じる

10月の朝礼で秋の気配、季節の変化を感じるか聞き、**五感**（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を使って日本の四季を感じる**感性を磨いてほしい**と話しました。空の様子、空気のおいなど秋の深まりを感じていますか？柳沢中の花壇には、色々な種類の菊の花が競うかのように咲いています。是非、愛でてください。

「食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、というけれど」

副校長 佐久間 豊

幼い頃から動くことが好きで、運動ばかりしていた自分にとっては、季節など関係なく1年中スポーツであった。しかし、スポーツをするには秋は最適な季節に間違いない。昭和39年10月10日に東京オリンピックが開催されたことで「体育の日」となっていたのも、季節でいえば、運動をするには最適な時期だったのかもしれない。

さて、日本中が今注目しているFIFAワールドカップ。4年に一度の祭典。今回は初めて中東で行われている。日本の時差とさほど変わらないので、テレビ観戦も可能だ。日本選手の活躍に期待を込める。先日行われた（11/23）初戦は優勝候補国の一つと言われている「ドイツ戦」前半はドイツの強さを目の当たりにする攻撃にあい、なすすべがなかったように感じた。「ドイツ」というネームバリューが邪魔をして、日本が思ったように攻撃できなかったのも事実である。

試合後に鎌田選手が「前半は、間違いなく相手をリスペクトしすぎていた。」と述べていた。しかし、後半に入り、メンバーを交代しながらの展開。徐々に日本が攻撃に転じていることがはっきりと分かった。**なぜ変わったのか？**今までであれば「ドイツ」というネームバリューで恐れていたチームだと思うが、今の代表選手のほとんどが海外でプレーしている選手ばかりであり、ドイツでもプレーしている選手も多い。彼らの才能は、海外の選手たちと比べても少しも見劣りしていない。あとは**自信**だ。気迫に吞まれず、臆することなく試合をしていく選手たちを見ていて手に汗握る展開に応援にも熱が入っていくのを感じる。「**勇気を持ってプレーし、対等に渡り合えば、必ずいい試合ができる**」とコツコツと努力した先に結果が付いてきた。ドイツ選手の消耗も見えてきた。先日、同じアジアのサウジアラビアが優勝候補のアルゼンチンに2対1で勝利したばかり。勇気もらった。番狂わせが起きてもおかしくない状況となっていった。堂安選手のゴールが入ると興奮度はMAX。このままいけば勝ち点をもらえる。守り切ればという考えはどこにもなかった。もう1点取りに行く。我武者羅な勢いを感じた。引き分けでも良いなどという考えはどこにもない。守りに徹していなかったわけでもなく、足がつるほど辛くてもディフェンス陣が踏ん張る。キーパーの権田選手の神セーブ。もう1点行くぞ！！という気持ちがボールに宿り、ついにその瞬間がやってきた。浅野選手のゴールだ。もう近所迷惑なほど声を出してしまった自分がいた。決して諦めることなく試合をしていた選手たち。約30年前の「ドーハの悲劇」から「ドーハの歓喜」に歴史が変わった瞬間であった。

諦めなければ結果が変わってくる。血のにじむ努力をしてきた成果が結果として表れた。大切なことを学んだ試合であった。森保一監督の「一喜一憂しすぎるな」「次だぞ！」まだ1試合が終わったばかりだ。次の試合でこそ真価が問われる。スポーツの秋。決して諦めない秋。

秋を感じつつワールドカップに目を向けてみよう。**何事もあきらめなければ結果が付いてくる**。今宵も眠れない日々が続く……。



旬の食材で栄養を摂って、良質な睡眠で免疫力UP



西東京市環境アワード校

「50周年花壇プロジェクト～西門を正門にする企画～」に31人の生徒から参加申し込みがあり、地域の方々のお力添えをいただきながら活動しているところです。

この度、西東京市みどり環境部環境保全課による「にしとうきょう環境アワード」の創設に際し、みどりの保全や環境学習の観点から本校の活動が表彰されました。



【予告】読む力、考える力、書く力UP作戦始めます

学校だよりや朝礼講話について自分の考えを200字にまとめる取組をやってみます。（都立高校入試問題国語では200字書き問題があります。）**継続は力なり**。詳細は別紙参照。

